

Press Release
プレスリリース

THE TYPOGRAPHY OF ERIC GILL

Legendary Letterforms

エリック・ギルのタイポグラフィ・文字の芸術

2011年12月17日[土]～2012年1月29日[日] 多摩美術大学美術館 Tama Art University Museum



◎企画趣旨

エリック・ギル(Arthur Eric Rowton Gill, 1882-1940)は、石彫100点、碑文750点、木版画1,000点におよぶ膨大な作品と、美術工芸や社会改革に関わる約300点の著述を残した、20世紀英国を誇る芸術家です。

女性の豊かな裸体を表現した彫刻、私家版の書物を飾った神々の挿絵、古代ローマのアルファベットを蘇らせた石碑文は、いずれもギルの手によって描かれた神秘的な曲線美をもっています。敬虔なカトリック信者である一方でタブーをこえる奔放な感情を貫き、手工芸思想を追い求めながらも産業化の波にのまれてゆく宿命は、矛盾に満ちた20世紀における表現者の喜びと苦悩を体現する姿そのものです。アーツ&クラフツ運動の精神を継承した芸術家のなかでも、ひととき異彩を放っているといえるでしょう。

そのようなギルの創作活動のなかで際立つのが、文字の造形を芸術の域にまで高めたレタリングとタイポグラフィの才能です。たとえば、1920年代末にギルが設計した活字書体《Gill Sans》は、第一次世界大戦前からギルが手掛けてきた数百枚の石碑文の結晶であるとともに、幾何学的な構造を取り入れて大量生産に対応するための工業製品でもあり、文字の伝統美に現代の合理性を調和させた、20世紀タイポグラフィの傑作といえます。ペンギン・ブックスやロンドン北東鉄道(LNER)、英国放送協会(BBC)の公式書体をはじめ汎用活字書体として広く使われ、以後のグラフィックデザインに与えた影響の大きさははかり知れません。

この展覧会は、ギルが携わった文字の造形を中心とした作品の中から、ドローイングや版画、書籍、書体見本帳を含む約200点を展示します。巨匠の手がつくり出す文字の造形美を一覧することにより、現代におけるタイポグラフィの意義を考えます。

本件に関するお問い合わせ

多摩美術大学美術館

〒206-0033 東京都多摩市落合 1-33-1

TEL 042-357-1251 FAX 042-357-1252

E-mail yoshida@tamabi.ac.jp

URL <http://www.tamabi.ac.jp/museum/>

学芸員 小林 宏道・淵田 雄・吉田 公子

本展担当 吉田 公子

◎展覧会概要

- 名 称** 『エリック・ギルのタイポグラフィ—文字の芸術
THE TYPOGRAPHY OF ERIC GILL: Legendary Letterforms』
- 会 期** 2011年12月17日(土)～2012年1月29日(日)
10:00～18:00(入館は17:30 まで)
- 会 場** 多摩美術大学美術館
〒206-0033 東京都多摩市落合1-33-1
Tel. 042-357-1251 Fax. 042-357-1252
<http://www.tamabi.ac.jp/museum/>
- 休館日** 毎週火曜日、年末年始(2011年12月27日(火)～2012年1月5日(木))
- 入館料** 一般 300円(200円) 大・高校生 200円(100円)
障害者および中学生以下無料 ※()内は20名以上の団体割引料金
- 交 通** 京王相模原線・小田急多摩線・多摩モノレール 多摩センター駅下車徒歩5分
- 主 催** 多摩美術大学美術館
- 監 修** 山本 政幸(多摩美術大学グラフィックデザイン学科准教授)
- 協 力** セントブライド図書館／郡山市立美術館／株式会社モリサワ
／凸版印刷株式会社 印刷博物館／武蔵野美術大学美術館・図書館(敬省略)
- お問い合わせ** 多摩美術大学美術館
〒206-0033 東京都多摩市落合1-33-1
TEL 042-357-1251 FAX 042-357-1252
E-mail yoshida@tamabi.ac.jp
URL.<http://www.tamabi.ac.jp/museum/>
- 担当学芸員** 吉田 公子
- 関連イベント** 講演会「エリック・ギルのタイポグラフィ(仮題)」
日時:2012年1月21日(土) 14:00～
講師:指 昭博／山本 政幸／他

展示会の見どころ

3つの特徴で構成

1. ギルによる石碑文のドローイングと拓本の実物展示

ギルの本来の生業ともいえる石碑文のオリジナル・ドローイングや拓本の展示により、古代ローマン体に対するギルの解釈を観察できます。



1. ダヴズ製本所のプレート (1910年)

2. ギルに関する私家版印刷の展示

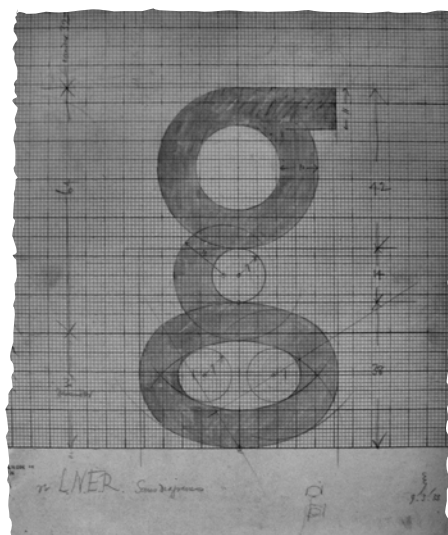
ギルが携わった書籍印刷を一堂に陳列します。さらにケルムスコット、アシェンデン、ダヴズといった美書との比較により、活字デザインや挿絵を含めたギルのタイポグラフィ観が視覚的に把握できます。



2. 『四福音書』の挿絵「磔刑」(1931年)

3. ギルがデザインした活字書体の図面・印刷見本の展示

ギルがデザインした活字書体の設計図や、それらを使用した印刷見本を展示します。タイポグラフィを大量生産や産業化に適応させるためにギルがとった工夫を理解できます。



3. L.N.E.R. (ロンドン北東鉄道) 専用書体の「g」のデザイン (1933年)

エリック・ギル (Arthur Eric Rowton Gill, 1882-1940) 経歴



Eric Gill. Self-portrait. Wood-engraving, 1927

- 1882年 2月22日、イーストサセックス州、ブライトンに生まれる。父ティドマンはプロテスタントの牧師、母ローズはオペラ歌手で、13人兄弟の第2子で長男だった。
- 1892年 家族とともにチチェスターへ転居、美術学校で学ぶ。
- 1899年 ロンドンへ移り、教会建築家W・D・カロエに弟子入りする。
- 1900年 ウェストミンスター技術学校で石彫を、中央美術工芸学校ではエドワード・ジョンストンにカリグラフィを学ぶ。
- 1903年 建築の道をあきらめ、カリグラフィ・石碑彫刻家になることを決意する。
- 1904年 8月、エセル・ムーア(マリー)と結婚する。
- 1905年 私家版印刷ゆかりの地、ハマースミスに転居する。
- 1907年 デイッチリングに転居する。中世の生活様式を理想とし、自給自足による芸術家のコミュニティをつくる。
- 1912年 エドワード・ジョンストンがデイッチリングに入村する。
- 1913年 ローマ・カトリックに改宗する。この頃、彫刻家としての仕事を開始する。
- 1914年 ウェストミンスター大聖堂の《十字架への道》のレリーフ彫刻に着手する。スタンリー・モリソンと出会う。
- 1917年 ヒラリー・ペプラー、エセル・メイレらがデイッチリングに入村する。
- 1920年 ペプラー、デヴィッド・ジョーンズ、デズモンド・シュート、ヨーゼフ・クリブラとともに、聖ヨゼフ・聖ドミニク・ギルドを結成する。
- 1921年 『ザ・ゲーム』を刊行、聖ヨゼフ・聖ドミニク・ギルドの設立を宣言する。
- 1924年 ペプラーと対立し、デイッチリングを離れてジョーンズらとともにウェールズのカペル・イ・フィンに新しい工房を設立する。ヨーゼフ・クリブはデイッチリングに残ったが、弟ローリー・クリブは1925年にギルのもとへ移った。ローリーはギルの死までギルのアシスタントを勤め、ペトラの夫デニス・テゲットマイアーとワークショップを引き継ぐ。
- 1925年 モノタイプ社のモリソンの依頼により活字Perpetuaを設計、その大文字はローマのトラヤヌス大帝碑文に基づいていた。
- 1927年 ダグラス・クレバードン書店の看板をサンセリフ体でレタリングする。サンセリフ体活字Gill Sansのシリーズを手掛ける(30年まで)。
- 1928年 クライアントの多くがあったロンドンから遠いカペル・イ・フィンを離れてハイウィッカム近くのピゴッツに転居、レネ・ヘイグとともにヘイグ&ギル印刷所を開設する。デビッド・キンダズリーや甥のジョン・スケルトンを弟子にする。娘ペトラはデニス・テゲットマイアーと、別の娘ジョアンナはレネ・ヘイグとそれぞれ結婚する。
- 1929年 ロバート・ギビングスのゴールデンコッカレル・プレス版『カントベリー物語』の挿絵に携わる。
- 1930年 ローマン体活字 Joannaの設計に着手する(31年まで)。Golden Cockerel Press Typeを完成する。
- 1931年 『タイポグラフィ論』初版を刊行する。ゴールデンコッカレル・プレス版『四福音書』の挿絵を担当する。
- 1932年 ロンドンのBBC放送局のために一群の彫刻《プロスペロとアリエル》を制作する。
- 1937年 郵便切手をデザインする。
- 1938年 ジュネーブの国際連盟ビルのためにレリーフ《アダムとイブの創造》を制作する。英国王立芸術協会から王室産業デザイナー(RDI)の称号を授与される。
- 1940年 肺の手術後、死去する。